

オーディオ実験室収載

ダンパーフレークの導入(9) —ターンテーブルシート—

1. 始めに

インフラノイズ社から、ターンテーブルアキュライザーTACU-1が発売され、その感想文を送るとダンパーフレークなる返礼品が送られてきました。前報(8)に引き続き、このものの応用を検討していきます。

2. ダンパーフレークの試聴方法

1) TACU-1の効果

TACU-1を使い始めた当初から気になっていることで、盤面の外周からTACU-1に近い内周に行くにしたがって音が良くなるような印象があります。例えば、協奏曲を聴いていると楽章が進むとともに生き生きと鳴るように感じます。常識的には外周の方が線速度も大きく、トラッキングエラーも小さいので外周の方が音が良いとされています。そこで、TACU-1を使った場合、外周と内周とで効果が違うかどうか確認してみることにしました。

2) TACU-1の効果を補うダンパーフレークの適用

TACU-1を使った場合、外周と内周とで効果が違う場合、ターンテーブルシートの外周付近にダンパーフレークを貼ってみます。ターンテーブルシートはFUNK FIRMのAchromat(白色)を使用しています。



3. ダンパーフレークの試聴結果

試聴システムはLINN LP-12を使用し、ダンパーフレークはダンパーフレークの導入

(1)とダンパーフレークの導入(3)で報告した箇所に貼ったままとします。

1) TACU-1 の効果の確認

盤面の外周と内周で TACU-1 の効果に違いがあるかどうかを楽章毎の表情が大きく異なる交響曲や協奏曲を避けて下記の音源で確認します。両盤とも、RIAA、正相、第 4 時定数 High で聴いていきます。

PHILIPS PC-1572~2

J.S.Bach チェロ組曲

モーリス・ジャンドロン (チェロ)

PHILIPS 25PC 35~36

J.S.Bach ヴァイオリンとチェンバロのためのソナタ

アルテュール・グリュミオー (ヴァイオリン)

クリスティアーヌ・ジャコッテ (チェンバロ)

ジャンドロン盤では、1面の最外周の第1番のプレリュードと内周の第2番のサラバンドとメヌエットを聴きながら TACU-1 を付け外ししてみましたところ、TACU-1 なしでは、プレリュードの方が緻密でしっかりボウイングの様が伝わってきましたが、サラバンドとメヌエットでは、ざらつき感が残ります。TACU-1 を付けた場合、プレリュードでは緻密さが増しますが、サラバンドとメヌエットでは、ざらつき感が解消し、さらに生き生きとした鳴り方をしてきます。即ち、TACU-1 なしでは、線速度の大きい外周の方の音が良いのですが、TACU-1 ありでは、内周の改善効果の方が大きいということになります。

グリュミオー盤では、1面の最外周の第1番の第一楽章と内周の第2番の第三楽章と第四楽章を聴きながら TACU-1 を付け外ししてみましたところ、TACU-1 なしでは、第1番の第一楽章の方がヴァイオリンもチェンバロも緻密でディテールの再現ができていますが、第2番の第三楽章と第四楽章では、外周に比べて音の肌理が粗く単調に感じられます。TACU-1 を付けた場合、第1番の第一楽章ではさらに緻密さが増し、響きが豊かになっていきますが、第2番の第三楽章と第四楽章では、肌理が細くなり、ニュアンスに深みが増し、最外周に近接しない時は時としてそれを上回るような生き生きとした鳴り方をしてきます。即ち、この場合も TACU-1 なしでは、線速度の大きい外周の方の音が良いのですが、TACU-1 ありでは、内周の改善効果の方が相対的に大きいということになります。

2) TACU-1 の効果を補うダンパーフレークの適用

TACU-1 の外周と内周とで効果が違うことが分りましたので、TACU-1 から離れた外周の振動を抑制するという考え方で、上記の写真のようにターンテーブルシートの外周部にダンパーフレークを貼り、この状態で上記 2 盤を聴いていきます。

ジャンドロン盤では、ダンパーフレークを貼った後の TACU-1 なしでは、外周の

プレリユードでは、ダンパーフレークを貼る前に比べて若干響きが豊かになったという程度ですが、TACU-1 ありでは、響きの豊かと同時にニュアンスが把握しやすくなっています。ダンパーフレークを貼った後の TACU-1 なしでは、内周のサラバンドとメヌエットでは、ダンパーフレークを貼る前とほとんど差がありませんが、TACU-1 ありでは、TACU-1 の効果が出て音の粗さが取れ、緻密な表現が聴かれます。

グリュミオー盤では、ダンパーフレークを貼った後の TACU-1 なしでは、第 1 番の第一楽章では、わずかにニュアンスが分かりやすくなった程度ですが、TACU-1 ありでは、響きが豊かになり細かいニュアンスが出てきます。ダンパーフレークを貼った後の TACU-1 なしでは、第 2 番の第三楽章と第四楽章では、何か変わったという印象はありませんが、TACU-1 ありでは、TACU-1 の効果をはっきり出て響きが豊かになり、細かいニュアンスが出てきて生き生きと鳴ってきます。

4. まとめ

外周と内周とで外の方の音が良いことが改めて確認でき、TACU-1 の効果は内周の方が外周より、よりはっきりすることが分りました。このためターンテーブルシートの外周付近にダンパーフレークを適用してみたところ、外周の方で若干 TACU-1 の効果をアシストするような印象を持ちました。さらに音源を追加してロングランで確認していきますが、ターンテーブルシートについても TACU-1 のような手法で良いものが開発できるのではないかという期待が膨らみます。

以上